

2022 年度 小委員会活動成果報告

(2022 年 12 月 16 日作成)

小委員会名	温度荷重小委員会	主 査 名：池田 周英 就任年月：2020 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (荷重運営委員会)	委員長名：五十田 博 (主 査 名：森 保宏)
設 置 期 間	2020 年 4 月 ～ 2024 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>日射や室内温度と言った多くの温度条件(温度荷重)による建物の構造体の変形、応力を把握し、適切な設計の対応を可能とするための指針を示すことが小委員会としての活動目的である。次回の荷重指針、設計資料集の改定に向けて、最新の温度データの分析、温度荷重による疲労の検討、部材温度の実測例の収集と簡易予測法の提案、指針を活用した設計事例のブラッシュアップ、等の課題に取り組む。</p> <p>初年度：最新の外気データ、確率分布の整理、繰返し応力に対する疲労の検討、部材温度の実測と簡易予測方法、設計事例の追加、更新についての検討</p> <p>2 年度：最新の外気データ、確率分布の整理、繰返し応力に対する疲労の検討、部材温度の実測と簡易予測方法 に関する成果の発表</p> <p>3 年度：最新の外気データ、確率分布の整理、繰返し応力に対する疲労の検討、部材温度の実測と簡易予測方法 に関する成果の纏め、設計事例の更新、追加・更新内容の纏め、次回の荷重指針改定方針の作成</p> <p>4 年度：次回の荷重指針改定案の作成</p>	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：無し	
	主査：池田周英(竹中工務店) 幹事：浅井英克(大林組)、小川彰宏(清水建設) 委員：石川孝重(日本女子大)、中島秀雄(小山高専)、久木章江(文化学園大)、伊藤博夫(aac)、宮崎健太郎(日建設計)、中尾彰宏(日本設計)、永田明寛(東京都立大)、李在純(大建設計)	
設置 WG (WG 名：目的)	無し	
2022 年度予算	50,000 円	ホームページ公開の有無：有り 委員会 HP アドレス： https://www.aij.or.jp/gakujutsushinko/b-a00/bc00-12/bc60-12.html

項 目	自己評価
委員会開催数	8 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	無し
講習会	無し
催し物 <small>*能力開発支援事業委員会承認企画</small>	無し
大会研究集会	無し
対外的意見表明・パブリックコメント等	無し
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 昨年度に引き続き、コロナの影響により Web 会議開催となったが、計画通りの達成度であった。 2. 建設現場及び小試験体の構造体温度の実測を継続して行い、簡易予測法の精度向上を行った。 3. 学会大会梗概を 4 編投稿し、小委員会内でも成果内容の共有を行い、ディスカッションを通じて理解を深めた。 4. 温度の観測データのアップデート、構造体温度の簡易予測法の提案、設計事例のブラッシュアップ等、次回の荷重指針改定に向けての議論を行った。 5. 荷重運営委員会から指示のあった火災荷重の扱いについて議論を行った。
委員会活動の問題点・課題	1. 新たな構造体温度の実測例を踏まえ、構造体温度の簡易予測法の精度向上を図る。 2. 温度荷重の繰返しによる鋼構造物の疲労、温度荷重の確率分布、温暖化のトレンドについて、引き続き検討を行い、改定原稿の執筆を進める。 3. 実務の設計へのより一層の活用に向けて、設計事例のブラッシュアップについて引き続き検討を行い、改定原稿の執筆を進める。 4. 荷重運営委員会と連携し、次回の荷重指針の改定方針についての意見交換を引き続き行い、温度荷重の章の改定原稿の執筆を進める。